

受動喫煙ゼロを目指して！

―秋田から発信！―

鈴木裕之

秋田・たばこ問題を考える会代表、
秋田県医師会タバコ対策委員会委員長、すずきクリニック院長

尾崎治夫会長招聘なる

2020年の東京オリンピック開催に向け、東京都は独特の受動喫煙防止条例を可決成立させた。それを牽引してきたのは、尾崎治夫東京都医師会長であった。秋田・たばこ問題を考える会では尾崎会長の熱意を生んで秋田県民に伝えたく、世界禁煙デー秋田フォーラム2018に尾崎会長を招聘し、このたび幸運にも、条例の成立前（2018年6月2日）にそれが実現した。

ところで、読者の皆さんは「交通戦争」という言葉をまだ覚えていたでしょうか？ 昭和30年代以降、交通

事故死者数の水準が日清戦争での日本側の戦死者数を上廻る勢いで増加したことから名付けられた名称である（Wikipediaより）。

過去の「交通戦争」

その「交通戦争」は昭和45年にピークに達し、その年の交通事故死者数は1万6765人に上った。その後、交通事故死亡者数は減少に転じ、47年後の平成29年には3694人と、戦後の最低値を記録する。

この背景には、自動車の安全性向上、道路の整備、警察の努力などが上げられると思うが、そこには官民揃って、国民総出の「交通事故撲



世界禁煙デー秋田フォーラム2018終了後、スタッフ全員による記念撮影。前列中央に尾崎治夫東京都医師会長、その右が筆者。皆いい顔しています。

秋田・たばこ問題を考える会 HP 連載コラム
秋田禁煙サロンより

非加熱式加熱式タバコの実情を もっと知らせましょう

2018年5月号

秋田厚生医療センター 添野武彦

ドック検診を行っていて、最近目立って来た事に、非加熱式加熱式タバコを吸っている人が増えている印象がある。検診受診者で喫煙者には、その都度禁煙を勧めているので、リピーターの方々に喫煙の続いている方の多くは、済まなさそうな表情で、言い訳をされて行く。

しかし『最近加熱式タバコに替えました』と得意げに仰る方も、少なからずいらっしやる。確かに禁煙外来でこのような方の呼気中一酸化炭素濃度を調べても、正常範囲内である。

【加熱式タバコは、受動喫煙の及ぼす被害が少ない】という、タバコ会社の宣伝に巧く乗せられている感じがして、お気の毒になる。それでも発がん物質等が含まれている事をお話すると、関心期にある方々は理解を示してくれる。このような巧妙な詭弁（きべん）ともいえる宣伝に惑わされないよう、禁煙キャンペーンを上げていきたいものである。来る6月2日の東京都医師会長・尾崎治夫先生のご講演を心待ちにしているこの頃である。

タバコの臭いがしたら、それは受動喫煙である。受動喫煙は喫煙者の身近にいる人ほど危険にさらされ、分煙では受動喫煙は防げない。加熱式タバコには紙巻きたばこと同様に心筋梗塞や脳卒中、がんなど健康リスクを高めるニコチンや発がん物質が含まれていて、アメリカでは加熱式タバコの販売は認可されていない。加熱式タバコも「タバコはタバコ」なのだ。

「受動喫煙戦争」を一刻も早く終わらせるためには、屋内完全禁煙化が最も確実で経済的な方法である。受動喫煙ゼロを目指した「受動喫煙撲滅運動」を国民全体のムーブメントにするために、これからも秋田県から発信し続けていく。

る会のホームページより。
その後、昭和63年から「世界禁煙デー秋田フォーラム」を毎年開催し、平成11年からは秋田県と共催で開催している。さらに「受動喫煙防止秋田フォーラム」を平成23年から毎年開催している。

この二つのフォーラムは現在、秋田県・秋田県医師会・協会けんぽと秋田・たばこ問題を考える会の共催となっている。このように秋田県のタ

バコ対策は、官民一体で行なわれていることが大きな特徴であると思う。県がアクションプランや大きな目標を定め、民間団体がそれを周知させ、具体的な行動をとるわけだ。秋田県医師会は県からの委託を受けサポートしている。

実際に、平成28年4月1日から施行されている「秋田県受動喫煙防止対策ガイドライン」の策定時には、J-Tからの妨害（喫煙所設置への資

金提供の申出）や秋田県飲食業生活衛生同業組合・秋田県旅館ホテル生活衛生同業組合からの「分煙」要請を、秋田県医師会・協会けんぽ・秋田・たばこ問題を考える会からの代表によるタッグで阻止した。

屋内完全禁煙化で 受動喫煙戦争の終結へ

減運動」が展開された結果だ。

現在の「受動喫煙戦争」

受動喫煙にも健康被害があることは、すでに昭和56年に発表された平山雄論文で指摘されており、現在まで枚挙に遑がないほどの科学的根拠が揃っている。

平成28年、日本で受動喫煙が原因で死亡する人は年間1万5000人になると発表された（厚生労働省研究発表表）。死亡原因の内訳は、脳卒中で8010人、心筋梗塞で4460人、肺がんで2480人、乳幼児突然死症候群で70人であった。

さらに性別では、男性4523人、女性10434人と女性が男性の2倍以上になっている。喫煙率は男性が女性の3倍であることを考えると（国民健康・栄養調査平成28年）、いかにタバコを吸わない人たちが犠牲になっているかが分かる。

ここで、改めて数字を見直して欲しい。受動喫煙による犠牲者は「交通戦争」とほぼ同数の犠牲者を出し

ているのである。まさに「受動喫煙戦争」の時代に突入したと言える。

他人事ではなく、タバコを吸う人も吸わない人も国民全体で、もっと危機感を持って臨むべき問題なのである。嗜好の問題、両者共存、喫煙権と嫌煙権というような対立の構造ではなく、全国民の健康問題なのである。

秋田県の禁煙運動の特徴

秋田・たばこ問題を考える会は、昭和62年に「秋田県のたばこ問題を幅広く考え、人々の健康を願い、無煙環境づくりを推進し、喫煙しないことのすばらしさを広めていくこと」を目的に賛同する者が参集して設立された（秋田・たばこ問題を考え



「世界禁煙デー秋田フォーラム2018」で講演をされる東京都医師会会長、尾崎治夫先生。下は聴講された皆さん。秋田・たばこ問題を考える会では、1988年から毎年「世界禁煙デー秋田フォーラム」を開催し30回となる。また、2011年からは、秋田県、秋田県医師会、協会けんぽと共催し「受動喫煙防止秋田フォーラム」も開催している。